

事業所名

こどもねっとβ

支援プログラム

作成日

2025年

2月

1日

法人（事業所）理念		子ども達それぞれに合った自立に向けた支援を行う					
支援方針		将来に必要な学習領域の専門療育、リトミック活動の中での運動感覚ならびにルール遊びの経験、巧緻性を高め苦手意識を軽減するような知育療育等でサポートを行い、社会の資源として、将来の自立へ向けた療育活動の支援・サポートを行う。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり 応相談
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善～検温、視診等による健康チェック、自分の体調の変化に気付けるように支援を行うようにする。 生活の中に学習する時間を取り入れ、ルーティンワークとして学習する機会を取り入れるように支援を行うようにする。 日常生活に必要なスキル（運筆や箸、衣服の着脱等）を、知育玩具等を用いてスキルの習得やレベルアップの支援を行うようにする。					
	運動・感覚	着座がきちんとできるように、本人に合った療育道具を使用しながら体幹を鍛えていくように支援を行うようにする。 リトミックを通して音を聞くことによるリズム感や表現力・協調性を育む支援を行うようにする。					
	認知・行動	TP0に応じた行動が出来るように、指示が通ることを増やし、小集団での活動ができるように支援を行うようにする。 物の個数や形、重さや色等の認知形成ができるように、知育玩具やプリント等で支援を行うようにする。					
	言語 コミュニケーション	気持ちのコントロールをはじめ、人との距離感や言葉遣い等の対人スキルの向上を目指します。また、進級・進学後を見据え、将来に役立つ情報を知らせていくように支援を行うようにする。 文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を活用し、コミュニケーション能力の向上のための支援を行うようにする。 心理士のプログラムによるSST(ソーシャルスキルトレーニング)を行い、社会のマナー、対人面等を向上させるように支援を行うようにする。					
	人間関係 社会性	学習や遊びを通して自分のできること、できないことなどを理解するとともに、自分の気持ちを伝えられるように支援を行うようにする。 イベントなどを通じた地域児童との交流を通じて、新しい人間関係の構築等の支援を行うようにする。					
家族支援		・本人のコミュニケーションや仕草等で気になったことを帰りの送迎時や面談の際に共有する。 ・定期的な面談や家庭での状況を保護者に確認、他事業所との連携を取り、支援内容に反映する。			移行支援		・必要に応じて学校を訪問し、情報の共有や具体的な関わり方のモデルを示す。 ・学校での引き渡し時では本日の学校での様子やがんばったことなどを聞き、支援に生かす。
地域支援・地域連携		・学校や教育機関・地域の学童保育施設と連携し、障害児の教育的ニーズに応じた支援を行う。また、地域児童とのクラブ活動を通してのインクルージョン（包容）を推進する。			職員の質の向上		・経験や職種に応じた研修の参加を促しスキルアップの機会をつくっていく。
主な行事等		・地域社会の一員として活動に参加できるよう、地域児童とのクラブ活動の機会を提供する。 ・地震津波避難訓練・買い物体験・調理体験・関連施設の行事への参加・公共機関見学等					